

2020年9月12日

日本経済新聞

「イグノーベル賞 なぜ日本人多い」

知能数理研究分野



19年のイグ・ノーベル賞受賞時のトロフィーを掲げる明海大の渡部教授(写真左)。19年の授賞式での渡部教授(右)、米ハーバード大)一同

イグ・ノーベル賞 日本人の近年の受賞研究

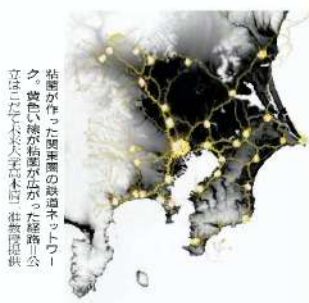
2014年	床に置かれたバナナを踏んで摩擦の大きさを測定した実験
15年	キスでアレルギー患者のアレルギー反応が弱まることを示した実験
16年	前かがみで股間から後ろをのぞくと実際よりモノが小さく見える「股のぞき効果」の実験
17年	滴窪にすむトリカヘチャタテという昆虫の雄と雌の生殖路が逆転していることを発見
18年	便座に座った姿勢で自分で大腸内視鏡検査をする実験
19年	5歳児が1日に出す唾液量の測定



ノーベル賞のパロディ「イグ・ノーベル賞」の発表が来週に迫る。2019年まで13年連続で受賞するなど、日本は世界有数のイグ・ノーベル賞大國。なぜ日本人の受賞が多いのか。

真面目・寛容な風土 後押し

イグ・ノーベル賞なぜ日本人多い？



結核が作った開港場の鉄道ネットワーク。黄緑色の線が結核が広がった経路。公立はこたて大学大卒。結核研究センター

開港大学教授の渡部慶元「イグ」と「ノーベル賞」を掛けあわせた結核。1991年に科学雑誌「新発見」の「マクニラハ」の「イグ・ノーベル賞」の賞目。イグ・ノーベル賞は「イグ」と「ノーベル賞」を掛けあわせた結核。イグ・ノーベル賞は「イグ」と「ノーベル賞」を掛けあわせた結核。イグ・ノーベル賞は「イグ」と「ノーベル賞」を掛けあわせた結核。

ある地理的位置に結核を置く。結核は「R」の致病菌と似たのがあり万全した。中尾さんは「開港場の結核」の研究で知られる。今では「イグ・ノーベル賞」の受賞者として知られている。大腸がん検診で受ける内視鏡検査。喉の奥から内視鏡を挿入して挿入する。このようにして挿入する。このようにして挿入する。このようにして挿入する。